

平成23年7月新潟・福島豪雨 只見川における対応について

1. ダム情報の発信について
2. ダム放流量低減に関する取組みについて
3. 滝調整池の緊急堆砂対策について

平成 25年 1月 16日
電源開発株式会社

1. ダム情報の発信について (1 / 2)

平成23年7月新潟・福島豪雨により只見川流域で甚大な洪水被害が発生したことから、水防情報として、以下の通りダム情報の発信を開始した。

1. 流域自治体へのダム情報の発信

(1) 対象ダム：当社ダム

(2) 発信する情報

ダム放流開始連絡：ダム放流開始1時間前に連絡する。

毎時連絡：ダム放流期間中、以下の情報を毎時連絡する。

「ダム水位」「流入量」「放流量」(発電使用水量を含む)「放流量の増減の傾向」

洪水開始連絡：ダムへの流入量が洪水量に達した時点で連絡する。

最大放流連絡：ダム放流量が最大となった時点で連絡する。

洪水終了連絡：ダムへの流入量が洪水量以下となった時点で連絡する。

ダム放流停止：ダム放流停止時に連絡する。

(3) 情報発信方法：FAX送信を基本とする。

(4) 平成24年実績：平成24年5月22日のダム管理演習以降、上記情報発信を開始。

只見ダムの作業に伴う放流にて放流開始・停止、毎時連絡を実施。(計3回)

2. 「川の防災情報」によるダム情報の公開

平成24年6月1日より、国土交通省様の協力を頂き「川の防災情報」においてダム情報(ダム水位、放流量、流入量、雨量等)を公開中。対象ダム：奥只見、大鳥、田子倉、滝の4ダム

1. ダム情報の発信について (2 / 2)

通知・通報先一覧

通知・通報の連絡先	ダム放流開始					毎時(ダム放流中)					洪水開始・終了					最大放流・最大流入					ダム放流停止									
	奥只見	大鳥	田子倉	只見	滝	奥只見	大鳥	田子倉	只見	滝	奥只見	大鳥	田子倉	只見	滝	奥只見	大鳥	田子倉	只見	滝	奥只見	大鳥	田子倉	只見	滝					
北陸地方整備局阿賀川河川事務所管理課																														
福島県山口土木事務所総務課 宮下土木事務所業務課																														
福島県南会津警察署地域交通課 会津坂下警察署地域交通課																														
南会津地方広域市町村圏組合消防本部																														
東北電力(株)会津技術センター制御所																														
只見町町民生活課																														
金山町総務課																														
三島町総務課																														
柳津町総務課																														
喜多方市山都総合支所住民課 高郷総合支所住民課																														
会津坂下町総務課																														
西会津町町民税務課																														

従前

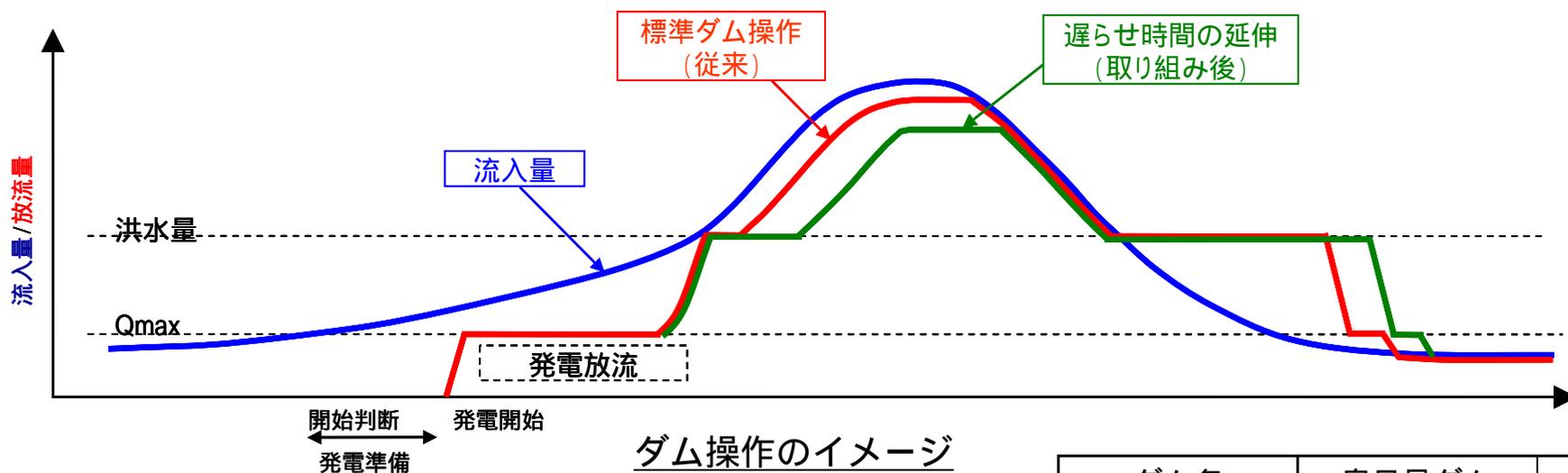
今回追加

2. ダムの放流量低減に関する取組みについて (1 / 3)

～ 奥只見ダム・田子倉ダムにおける暫定運用 ～

1. 概要

- 平成23年7月新潟・福島豪雨による洪水被害を踏まえ、大規模出水時のダム放流量の低減を目的として、洪水に到達する際の水位（目標水位）を設定し、空き容量を確保する。
- 確保した空き容量を利用し、ダム放流の遅らせ時間を延伸させることにより、標準的なダム操作に比べて最大放流量の低減を目指す。
- 暫定運用は平成24年から実施し、毎年6月21日～10月10日を運用期間とする。
- 運用期間の間、洪水到達時のダム水位は目標水位以下となるよう運用する。
- 本暫定運用をダム操作規程に位置付けるため、操作規程を改訂。（平成24年8月承認）

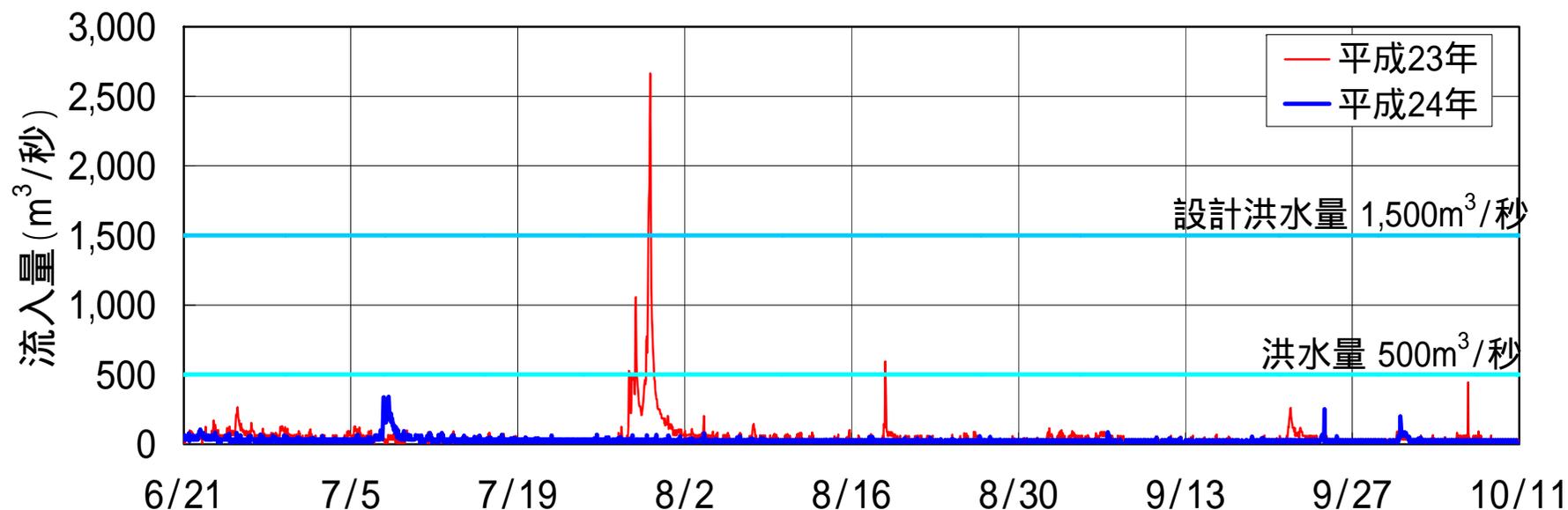


ダム名	奥只見ダム	田子倉ダム
目標水位	標高 748.0m	標高 507.0m
参考：満水位	標高 750.0m	標高 510.0m

2. ダムの放流量低減に関する取組みについて (2 / 3)

2. 平成24年の実績

- 奥只見ダム・田子倉ダムとも大規模な出水はなく、暫定運用の実績はなかった。
- 以下に平成23年と平成24年の奥只見ダムへの流入量の比較を示す。



H23とH24の奥只見ダム流入量 (時間平均値)

3. 今後の方針

- 奥只見ダム・田子倉ダムにおける暫定運用は平成25年以降も実施する。
- 暫定運用の実施に伴う洪水時のダム放流量の低減効果、下流利水への影響等について検証を行い、必要な改善を図る。

2. ダムの放流量低減に関する取組みについて (3 / 3)

参考：降雨予測システム

- ダム放流の判断に資する降雨予測を行うために、平成24年より只見川上流域の降雨予測システムを導入した。
- 本システムは、様々な気象観測データに基づき、5km格子間隔で24時間先までの降雨量を予測するものである。
- 予測は、毎日16時の定時予測のほか、注意報や警報が発令され大雨が予想される場合には定時予測に追加して臨時予測を行う。
- 平成24年はまとまった降雨が少なく、降雨予測には過大・過小等の明確な傾向は見られなかった。



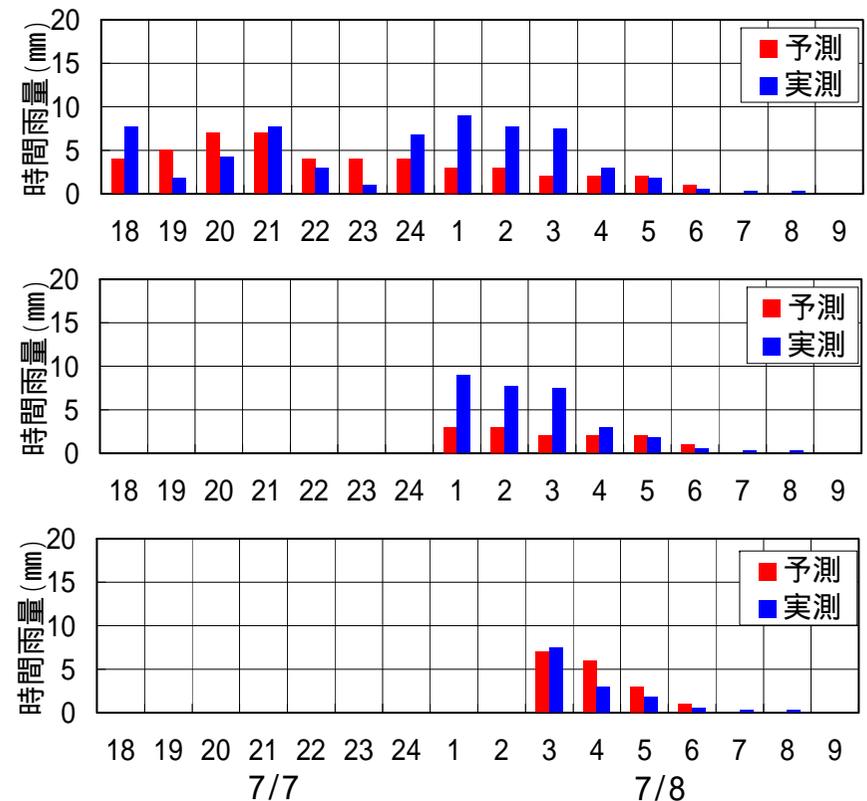
7日16時の予測と実績



7日23時の予測と実績



8日1時の予測と実績



降雨予測システムの対象領域（只見川上流域）

降雨予測の例（奥只見ダム流域、H24.7.7～7.8）

3 . 滝調整池の緊急堆砂対策について

平成24年度は、緊急対策として23年7月出水により局所的に土砂堆積が進んだ只見川本川と支川（蒲生川、塩沢川）との合流部付近において土砂排除（陸上掘削）を実施。

